

福岡観世会 第一回

令和六年

能半 はげどみ
蔀森本哲郎

狂言成上り なりあがり
野村万禄

能野 のもり
守今村嘉太郎



とき／令和6年 5月18日(土) 午後1時始(12時開場)

ところ／大濠公園能楽堂

入場券／第一回・第二回綴り券 ▶ 指定席…18,000円・自由席…14,000円
当日券(単券) ▶ 指定席…10,000円・自由席…8,000円

※前売券は綴り券のみの販売となります。

※第一回のみ入場券(単券)をお求めの方は、当日券をご購入ください。

発売所／大濠公園能楽堂 ☎092-715-2155

半

森本 哲郎

喜多 雅人

大鼓 白坂 正佳
小鼓 幸 正佳

笛 相原 一彦

天柏 碓

仕舞 潜 崎道行
鼓 菊本 美貴
長宗 敦子

多島 法子
坂口 貴信
今村 一夫

小倉要二郎
鷹尾 章弘
坂口 信男
今村嘉太郎

能

鶴玉

鬘 飼キリ

坂口 貴信
今村 一夫

成上り

狂言

野村 万禄

吉良 博靖
杉山 俊広

後見 雪野 洸太

△休憩 十五分△

善杜 邯

仕舞 知 若クセ
鳥 親世 清和
山本 章弘

多島 利之
親世 清和
山本 章弘

久田 勤吉郎
今村 嘉伸
大西 礼久
鷹尾 維教

△休憩 十分△

能

守

今村嘉太郎

村瀬 慧

吉住 講

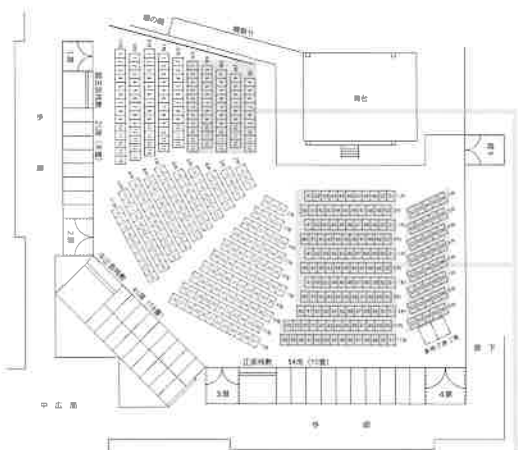
大鼓 白坂 信行
小鼓 飯富 章宏

太鼓 吉谷 光次
笛 森田 光次

後見 今村 哲朗
大西 礼久

小倉要二郎
井内 政徳
山口剛一郎
久保誠一郎

今村 一夫
親世 三郎太
坂口 貴信
鷹尾 章弘



指定席 (その他は機敷席を含めて自由席となります。)

第二回 予告

【とき】令和七年 一月二十五日(土)
午後二時始(十二時開場)
【ところ】大濠公園能楽堂

能 弱法師 親世 清和

能 狂言 梟山 伏野村 万禄

能 殺生石 久保誠一郎

白頭

半部

都北山雲林院に住まう僧が、夏安吾(げあんご)夏の九十日の間、一歩も外出せず修行をおこなうこと)の終わる頃に、お供えた花を集めて、供養をする場面から始まります。そこへ里女が現れます。夕顔の花を添え示しながら、自分が五条あたりの者であり花の主であることをほめかして、消えてゆきます。気になった僧は、五条の辺りを訪れます。そしてそこにある寂しく荒れ果てた半部屋の前に、まるで夕顔の女に誘われるように、源氏物語に著わされた夕顔の物語の幻を見るのでした。夕顔の君の儂げな風情は、源氏物語に登場する女性の中でも特に印象的ですが、『半部』のシテは、光源氏との逢瀬にて訪れた某の院にて物の怪によって消え失せる夕顔と、ほの白く咲く夕顔の花の姿が重なるように描かれています。

成上り

初虎の日、主人は京都の鞍馬寺に参詣するため、太郎冠者に太刀を持たせ二人で出かけます(初寅の日に毘沙門天に参拝すると福を授かると伝えられる)。寺で一晚籠もっているところに一儲けしようとする(盗人)が現れ、太郎冠者が持っていた主人の太刀を青竹とすり替えます。帰り道、太郎冠者が太刀がないことに気付くと、「山の芋がうなぎになる」、「蛙がかぶと虫になる」など成り上がる(身分や地位の低いものが出世する)話をして、主人の太刀も青竹に成り上がったと言いつくします。あきれた主人は、すっぱを捕まえようと待ち構えていると...

野守

出羽国羽黒山の山伏が、大和国春日の里に着き、名所を訪ねようと人を守っていると、野守の老翁と出会います。野の番をしているという老人は、目の前にある池が、野守を映すと共に鬼神の持つ鏡であると、伝説や故事に因む興味深いそのいわれについて話します。是非その鏡を見てみたいという山伏を残し、老人は塚の内へと姿を消します。折袴する山伏の前に、鏡を掲げて鬼神が姿を現します。四方に八方、天から地獄の底までも鏡で映し出すと、鬼神は大地を踏み破って、奈落の底へと入ってゆくのでした。(記・菊本澄代)